

帯工高の学び 外部と探究

環境土木科3年 今年度から全生徒で

帯広工業高校（中島泰彰校長）の環境土木科3年生40人は今年度、行政や民間企業と連携した探究学習に取り組み、都市計画や施工管理などグループごとに課題を設定し、土木に関する学びを深める。22日に関係者が来校して開始式が行われ、半年以上にわたる活動がスタートした。

（澤村真理子）

課題研究の授業はこれまで、資力は希望する一部の生徒にとどま格取得に向けた学習や校内の整備 っていた。今年度は、土木について中心で、外部と連携した取り組みの体系的・系統的な理解や、独



修繕に向け、稲田小のグラウンドのトイレ前のコンクリートの状況を確認する生徒

道の駅おとふけ活用、稲田小修繕に挑戦

創的な解決策の探究などを目的に、全生徒が4班に分かれて取り組む。帯広開発建設部、帯広市、平田建設（土曜）、帯広稲田小学校が協力する。

小学校は、平田建設の社員の助言を得ながら、稲田小グラウンドにあるトイレ前のコンクリートブロックの修繕に挑戦する。生徒たちは開始式後に同校を訪れ、凍結によって段差が生じた現場の状況を確認。工事箇所を測定したり、コンクリートの撤去方法などについて話し合ったりした。現場は小学生が登下校時に通る場所で、安全確保策についても生徒が考える。

班長の田中暖人さん（18）は「写真で見えていたが、思っていた以上にでこぼこしている。会社に入ってからやることを、学校にいるうちに経験できるのは大きい。みんなまで話し合っただけでいくのが楽しみ」と意欲をのぞかせた。今後、計画を立案し、工事に取りかかるのは夏休み明けになる見通し。

授業は週に1回 年明け成果発表

他のグループは、道の駅おとふけの新しい活用方法や校舎の階段修繕などに取り組む。課題研究の授業は毎週水曜日にあり、来年1月に後輩たちに成果を発表する。